



【令和6年度 老健事業 移動支援セミナー】

おでかけ応援隊事業について

令和7年3月13日

岡山市保健福祉局高齢福祉部
地域包括ケア推進課



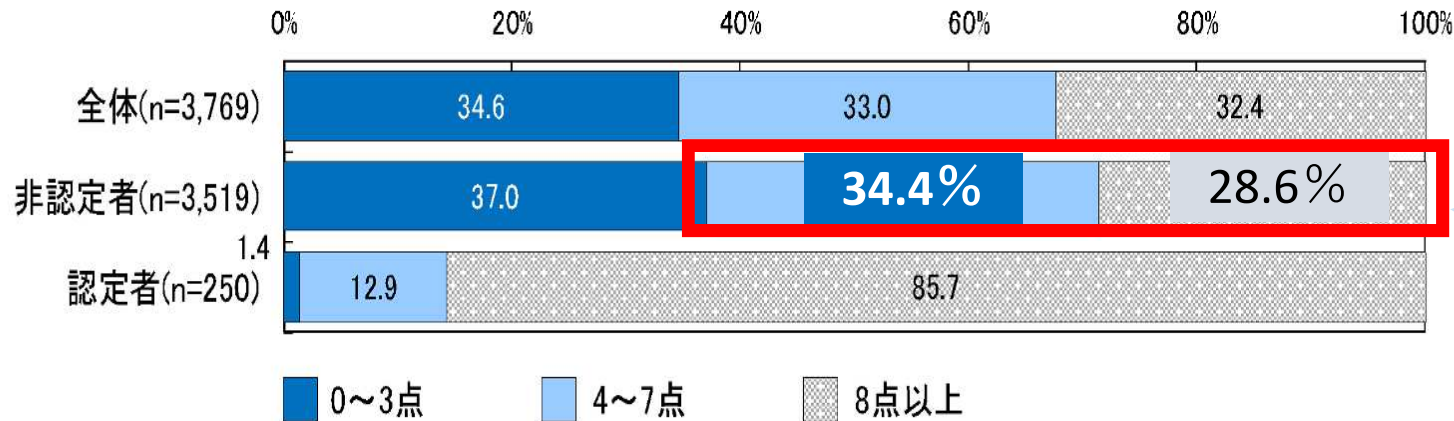
【二一ズ調査とは】

- ◆ 市内に居住する65歳以上の高齢者6,000人（無作為抽出）
：介護保険非認定者5,500人＋要支援1・2認定者（500人）
- ◆ 実施期間：R4.9.30～R4.10.31
- ◆ 実施方法：郵送配布・郵送回収
- ◆ 回収結果：4,574件 回収率76.2%
（有効回収数4,529件 有効回収率75.5%）

ニーズ調査結果) フレイル該当状況

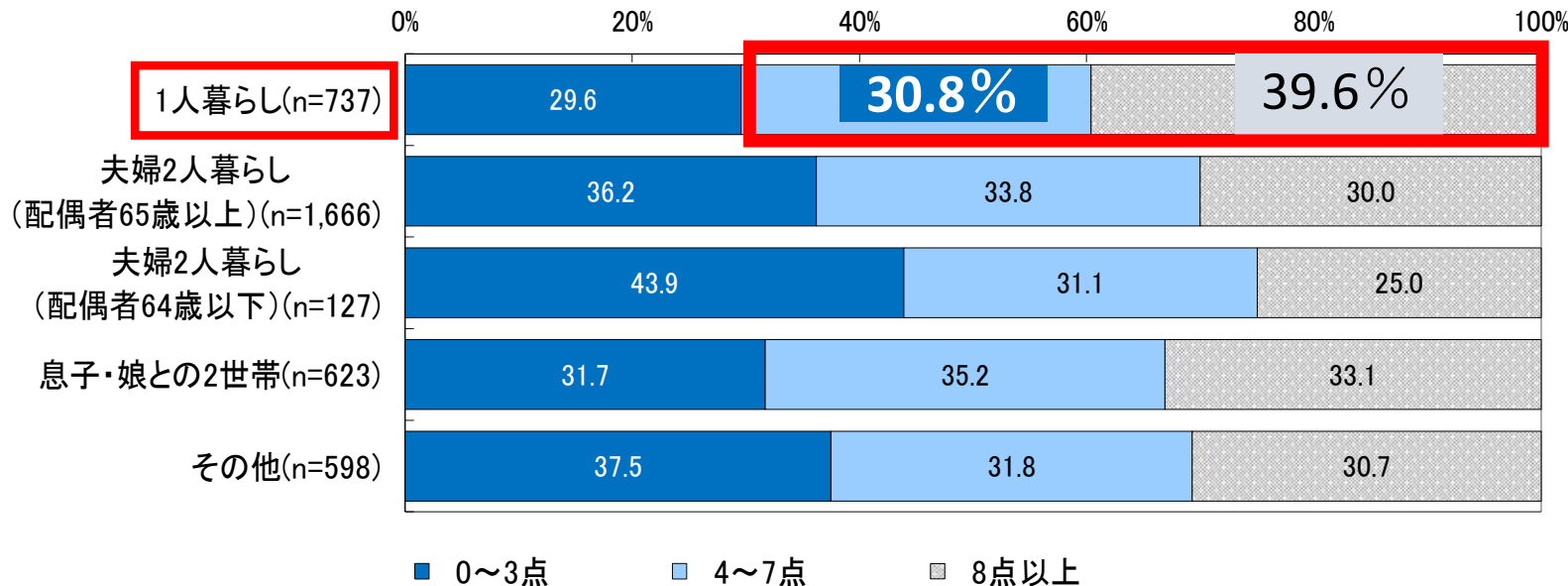
【フレイル該当状況（認定状況別）】

* 無回答を除いた集計



約3割：フレイル
約3割：プレフレイル

【家族構成別フレイル該当状況】

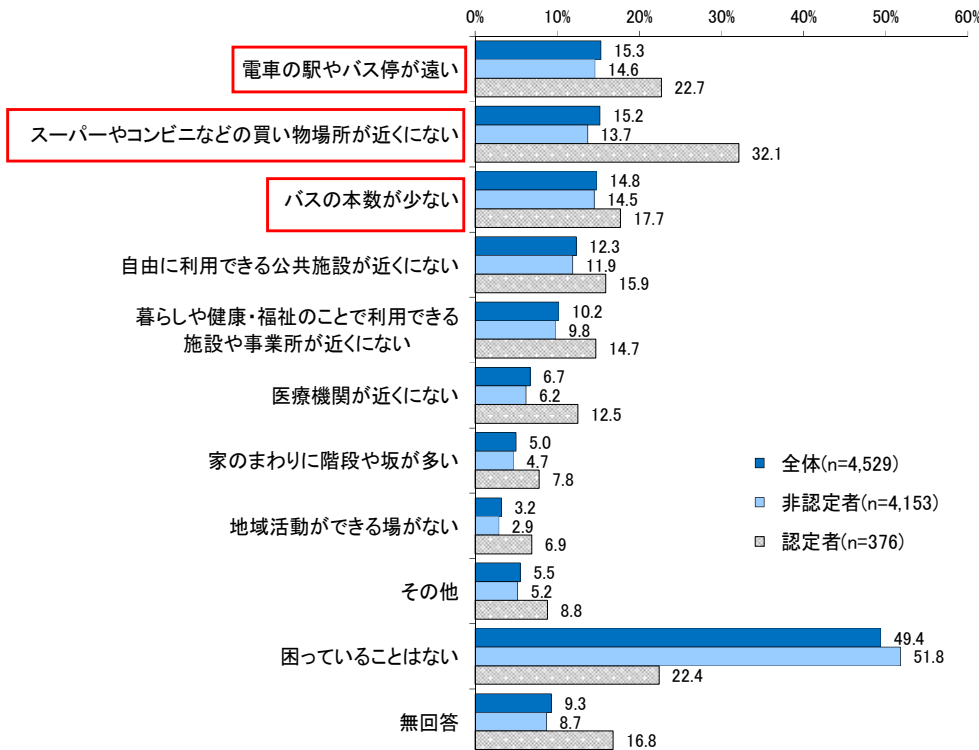


約4割：フレイル
約3割：プレフレイル

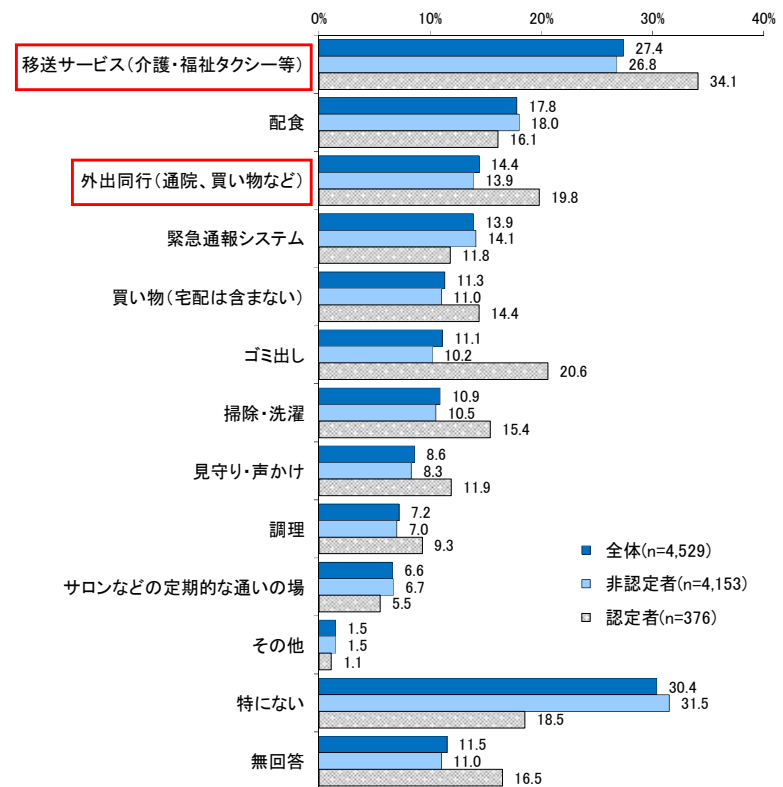
基本チェックリストを用いて評価、点数の範囲は0~25点であり、4~7点を「プレフレイル」、8点以上を「フレイル」状態であると定義

移動支援へのニーズの現状

居住地域の課題



介護保険サービス以外で利用したい支援・サービス



- ◆居住地域の課題について、「電車の駅やバス停が遠い」「スーパーやコンビニなどの買い物場所が近くにない」「バスの本数が少ない」と移動を伴う理由のものが上位を占めている。
- ◆介護保険サービス以外で利用したい支援・サービスについて、「移送サービス」と回答した人の割合が最も高く、外出同行（通院、買い物など）も3番目に高い。
- ◆認定者、非認定者にかかわらず、移動に困難を感じている人が一定数おり、高齢者本人の外出への支援を望む声が多い。

岡山市の高齢者が利用できる移動支援事業の現状と課題

公共交通運賃助成

ハレカハーフ

高齢者対象。路線バス・路面電車の運賃が半額

おかやま愛カード (岡山県事業)

免許を返納した高齢者対象。路線バス半額、タクシー運賃1割引
R6.11.1より廃止する業者あり (下電観光バス・岡山両備タクシーなど)

誰でも使用できるが、基本的には公共交通機関を自力で利用できる人が中心

福祉有償運送
(社福・NPO等)



実施団体の施設への送迎が多く、希望する場所へ随時依頼できる性質のものではない

障害者・要介護者等で事前登録必要。



公共交通が近くにあっても、バス停までの数百メートルが歩けない、買い物を持って帰れない、タクシーを呼ぶには近距離過ぎて言いにくいという声も…



ケア課が広めたい活動



軽度～重度者向け事業

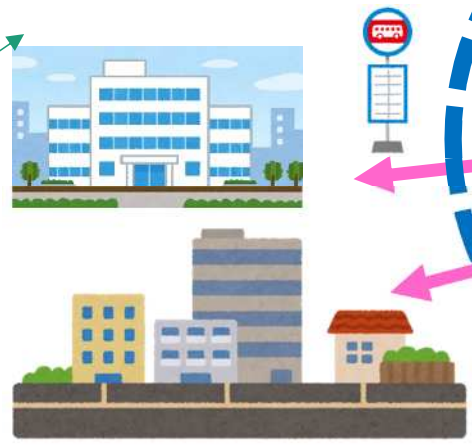
福祉タクシー

身体障害者手帳1・2級または療育手帳A所持者で所得税非課税世帯の人に限られる

介護保険による訪問介護サービス (乗降者介助)

要介護1～5認定者で利用の必要性がケアプランで位置付けられた人
※行先は通院にほぼ限定

総合病院・大型スーパー等



公共交通やタクシーを使っていくのが難しかった近距離の病院やスーパー、通いの場に行くことができる



地域の支え合い活動における移動支援の課題と支援方針

移動支援活動(支えあい活動)を行っている地域団体から聞き取った意見

- ①**運転ボランティア不足**
事故の懸念から家族の反対等引き受け手が少ない
サポーターの高齢化
任意保険やガソリン代等の負担感
- ②**情報不足**
道路運送法許可不要の確認等専門的な知識が必要
他団体の好事例、デマンド交通等市の事業、地域資源、補助金などの情報提供
- ③**運営資金不足**
継続した活動を支える市の補助金メニューがない
任意保険等の経費は個人持ちになっている

見えた課題

居場所づくり（サロン、あっ晴れ！もも太郎体操等）や生活支援（ゴミ出し、草取り等）、見守り活動は広がってきているものの、
移動支援活動は広がっていない

- 運転ボランティアが安心して活動できるための支援が必要
- 支え合いの移動支援活動に精通した専門家の助言が必要
- 活動の立ち上げや継続に対する一定の知識を持った伴走者が必要
- 移動支援に関する特殊経費を考慮した活動経費の支援が必要

一般介護予防事業に
位置付け

おでかけ応援隊事業補助金
アドバイザー派遣補助金

おでかけ応援隊事業補助金の内容（令和6年8月スタート）

移動支援を行っている団体へのヒアリングから見えた課題

課題1

運転ボランティア不足
事故への懸念

課題2

運営資金不足

課題3

情報不足

支援1

安全運転講習会の
受講費用を負担
(基礎講義+技能)

支援2

- 自動車保険の負担感の解消
- 運転適性診断手数料助成

支援3

ステッカーの配布

支え合い活動
実施中！

支援4

活動費の補助

支援5

アドバイザー派遣
(専門家からの
助言)

- ◆ 移動支援活動の基礎知識等を学ぶ講習会への参加費用を助成（移動ネットおかやま主催講座など）

- ◆ 移動支援専用自動車保険の保険料を助成
- ◆ (独)自動車事故対策機構が行う適性診断の受講料を助成

- ◆ 移動支援活動時に車のボディに貼るステッカーを配布
- ※白タクではないこと
自分たちの活動もアピール

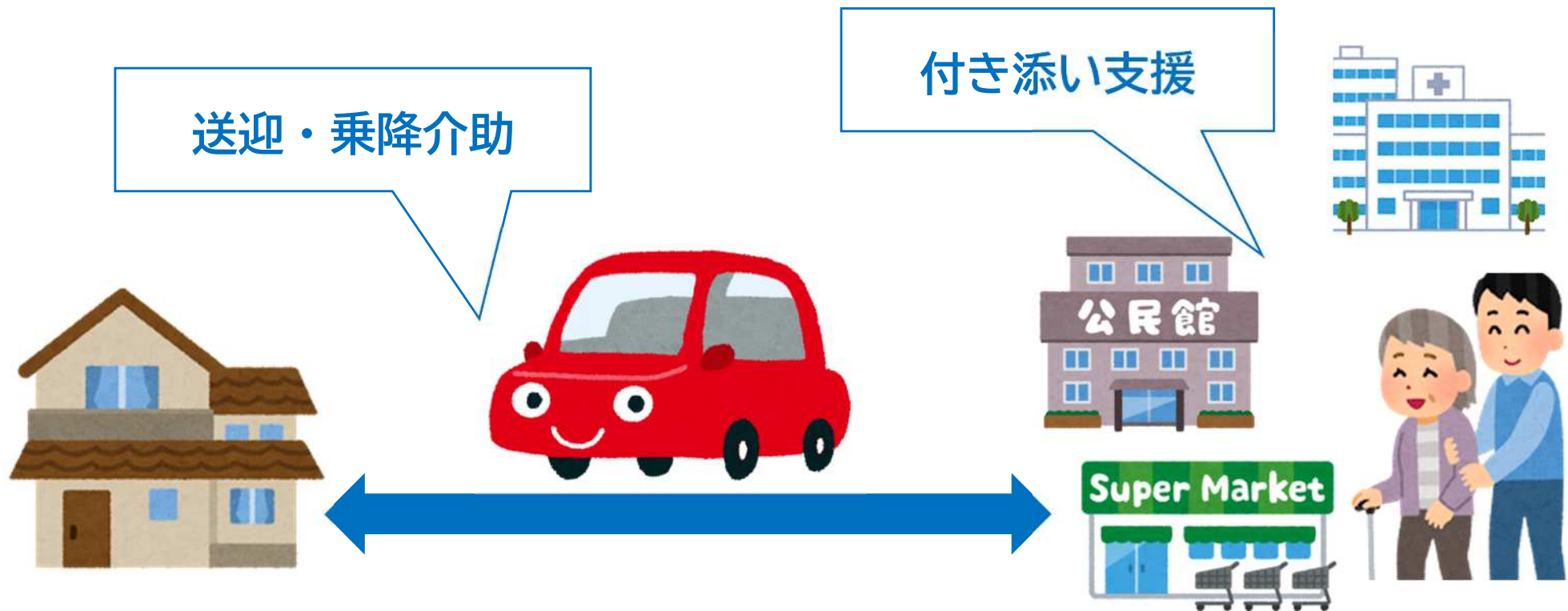
- ◆ コーディネーター人件費の助成
- ◆ 事務経費の助成

- ◆ 移動支援活動に精通したアドバイザーの派遣費用を助成

補助対象となる活動のイメージ



通院・買い物等の目的地までの送迎し、目的地での付き添い（買い物 同行や病院受付の手助けなど）と、乗降時の見守りや簡単な介助等を行う活動



目的地：病院・スーパー・通いの場・公民館など身近な場所

R6年度の実績とR7年度の方角性

地域住民等が主体の支え合いによる移動支援活動に対する補助を行うことにより、外出に課題を抱える高齢者等の日常生活上必要な外出や社会参加の促進を図る

R6年度

【1団体あたりの補助上限額】

①おでかけ応援隊事業補助金 (1団体あたり)

R6(4団体分)	
事務経費	50,000円
コーディネーター人件費	24,000円
自動車保険料	50,000円
運転適性診断受講料	25,000円
安全運転講習会受講料	50,000円
計	199,000円

②アドバイザー派遣補助金 20,000円(10団体分)
(総事業費:1,117,000円)

【実績】

- ①おでかけ応援隊事業補助金 1件(南区西)
- ②アドバイザー派遣補助金 3件(北区北1、東区2)
- ③市内全域の地域住民を対象に勉強会を実施 1回

成果と課題

【成果】

- ①勉強会を開催したことで、移動支援活動に関心のある地域を把握できた
(18の地域、32人の住民参加)
- ②勉強会のアンケート結果から個別にアプローチし、アドバイザー派遣につながった
- ③地域の中で、「高齢者の移動支援」について考える場をもつ機会が増えた

【課題】

- ①リスクや心理的負担の大きい運転ボランティア等、支え合い活動の担い手の確保をどうするか
- ②活動に関心のある地域に対して、地域住民の合意形成にいたるのに効果的な支援はどういったものか

今後の展開

- ①関心のうすい地域も巻き込んでいけるよう、働きかけを行っていく
- ②社会福祉法人と地域住民との連携を進めていく